

昭和18年、宮城県仙台市生まれ。75歳。

図書館長が図書館の運営に対して諮問する『図書館協議会』の副会長を長年歴任。『のぼりべつの図書館を考える会』代表。自ら、国内や世界の先駆図書館を巡り、視察・見学している。

影響を受けた一冊は『民主主義』（文部省著作教科書・径書房）。

読むことは 楽しいこと

人は、本がなくても、生きていくことは可能ですが、どんなに科学が進歩しても、本はいつまでもなくならない。それは、ものを考える力を育むには、本を読むことが必要だからです。

本を読むとき、文章の行間や作者の書いた背景、紙の匂い、本そのものの質感など、自分自身でも意識していないさまざまな要素が複雑に作用し、深い思考が働きます。本というだけで敬遠する人が

いるように、本を読むことはとても能動的な行為。自ら読もうとする意識が必要で、それを身に付けるためには、やはり、小さい頃から本を読む環境づくりが大切です。だからこそ、読みたいと思ったときに、いつでも本にふれることができる図書館が大切なのです。

皆さんは、全国には、図書館を設置していない町村があることを知っていますか。

教育や文化は、形として表れるまでには時間がかかるため、財政状況が厳しいこともあり、図書館の置かれた環境はおしなべて貧しい。ですが、登別市の図書館は、限られた予算・限られたスペースの中でさまざまな工夫を行っています。近隣市と連携した広域の貸出システムを構築するとともに、図書館業務に欠かすことのできない司書が自主的に研修に参加するなど、質の高い図書資料と熱意をもった人材がそろっています。図書館に行けば、皆さんの気に入る一冊がきつと見つかるはずですよ。

皆さんは、市立図書館で発行している『図書館通信』を知っていますか。毎月の新刊リストやイベント情報に加え、図書館職員などによる書評、市民ボランティアの投稿などが掲載されていて、図書



▲平成29年度から内容を充実させて発行している『図書館通信』

館をより身近に感じることができるので、ぜひご覧ください。

良い種をまいても、豊かな土地でなければ、植物は育ちません。図書館は、わたしたちのまち『のぼりべつ』に必要な不可欠な栄養素です。

幌別西小学校のPTA活動の一環で読書会を開催していたことをきっかけに図書館に対する興味が、強まった私は、登別市の図書館が、より良い図書館となるよう地道に活動が続けてきました。この活動は、細いろうそくに火をともし続けるようなもので、灯りを消さないようつないでいくことが私の役目だと思っています。

今後も、図書館、そして本の楽しさと大切さを知ってもらえるよう多くの市民の皆さんに伝えていきたいと思っています。



登別市立図書館協議会副会長

合田 美津子さん

自由に本が読める 幸せ

までには時間がかかるため、財政状況が厳しいこともあり、図書館の置かれた環境はおしなべて貧しい。ですが、登別市の図書館は、限られた予算・限られたスペースの中でさまざまな工夫を行っています。近隣市と連携した広域の貸出システムを構築するとともに、図書館業務に欠かすことのできない司書が自主的に研修に参加するなど、質の高い図書資料と熱意をもった人材がそろっています。図書館に行けば、皆さんの気に入る一冊がきつと見つかるはずですよ。

皆さんは、市立図書館で発行している『図書館通信』を知っていますか。毎月の新刊リストやイベント情報に加え、図書館職員などによる書評、市民ボランティアの投稿などが掲載されていて、図書